

2014年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2014年3月10日）

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
佐藤哲夫	C	にぎわいのある商店街	23区内またはその周辺にある商業集積地区を調査し、その魅力について研究する。一つの地域を全員で調査・研究するのではなく、分担して行う。調査は休日等を利用して、原則として日帰りで行う。	木・2
橋詰直道	D	都市に関する文献調査と現地調査	都市や住宅地に関する人文地理学の論文を前後期、複数回レビュー発表することで、地域研究の課題や調査方法を学ぶ。夏休み中には、各自地域調査をし、その調査レポートを9月に提出してもらう。また、後期には関東甲信越地域の中小都市を事例に、ゼミ合宿形式（9月または10月、3泊4日）での地域調査を行い、地理調査の方法や調査結果の集約・分析方法、まとめ方などを学び、調査報告書の作成を行う。4月に、1年間の授業での発表順やレポート提出の日程を決める。前・後期に各1度、都内日帰り巡検も行う。	火・5

地域文化調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小田匡保	A	三次市の人文地理（農業・地場産業・商業・観光・墓地など）	広島県三次市	10月上旬（3泊4日）	三次市に関する統計の分析、地図の読み取り、文献の講読などを行ない、自分（個人またはグループ）で調査テーマを決めて、現地調査（聞き取り・観察など）の計画を立てる。現地調査後は報告書を作成する。	水・5
櫻井明久	B	地方都市と周辺農村	岡山県津山市周辺	9月下旬～10月上旬の3泊4日	前期には、グループないし個人で、研究テーマを設定し、大学周辺で土地利用調査など地域調査の基礎を実習し、後期には、現地調査を実施し、レポートを作成する。	金・2
須山 聡	D	奄美大島の地域性	鹿児島県奄美大島	6/22-26（予定）	奄美大島の地域的特徴を、グループごとにテーマを決めて調査する。景観の観察・土地利用調査・聞き取り調査・統計資料の分析などを主要な手法とする。近年のテーマは、市街地の活性化、Iターン移動、奄美の妖怪ケンムン、郷土料理鶏飯などである。今年度は、特定の集落を対象としたインテンシブな集落調査も考えている。地理学特講Ⅱを合わせて履修することが望ましい。	水・4
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県栄村	6月（4泊5日）	農村集落の持続と変容、伝統的な食文化の再評価、都市・農村交流、農村への移住、震災からの復興などのテーマで資料収集と調査をして、報告書を作成する。「村落地理学」を履修した人は今年度にA・Bとも履修のこと。	月・3
土谷敏治	F	公共交通を中心とした都市の交通問題	福井市、あるいは岡山市を予定	10月中旬の予定	公共交通を中心とした都市政策について、行政・事業者等に聞き取りを行うとともに、施設見学をする。授業では、文献講読と調査計画を作成し、調査後調査結果分析とその報告、報告書の作成を行う。	火・5

地域調査入門（2, 3, 4年選択）両専攻共通

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
橋詰直道	B	地方都市のまちづくり	小樽市	6月中の金-月（3泊4日）	斜面都市小樽を事例に、斜面住宅地と高齢化、商店街とまちづくりなどの分野について現地調査を実施することで、高齢化の進む地方都市が抱える諸課題について学ぶ。登録後は、全ての事前調査学習授業での発表、現地調査、調査後のまとめの授業に出席し、かつ報告書用レポート提出できる学生に限る（事前に宿泊費を徴収する）。なお、授業終了後も夏休み期間中にレポートの修正を複数回要求することになる。	前期月・5
高橋健太郎	D	農山村を知る、考える	越後妻有	11月（3泊4日）	民家や農地を舞台としたアートを用いて地域振興を図っている農山村地域で、その実態や効果、課題などを調査する。調査に行くだけでなく、事前準備と調査レポートの作成をきちんとできる方のみを募集する。	後期火・3
鈴木秀和	E	多摩地域の自然（とくに水）環境と人の関わり	多摩地域（御岳山と国立市周辺）	10～11月に1泊と日帰りの2回	①調査テーマの決定、②予備調査、③調査計画の立案、④現地調査、⑤結果の取りまとめと発表、⑥レポートの作成という一連の過程を通じて、フィールドワークの基礎を学ぶ。調査内容：御岳山では、山地源流部の河川水質、水に乏しかった御師（おし）集落での水利用の歴史、国立市周辺では、湧水の現状や保全への取り組みなど。	後期金・5

地域環境演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
鈴木秀和	C	火山と台地の水文環境	火山地域や武蔵野台地の湧水・地下水と、それに関連する地形・地質などの文献講読を中心に授業を進める。また授業の後半には、各自が興味をもつテーマに沿った論文の講読を行い、卒業論文のテーマや調査計画などについて検討した結果を発表してもらう。6月下旬には関東近郊の火山（箱根・富士もしくは浅間山）や、後期には武蔵野台地の湧水に関する小巡検を行い、野外調査法についても学習する予定。	火・3

地域環境調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
江口 卓	A	屋久島の気候と環境	鹿児島県屋久島町	10月中・下旬	屋久島の気候の地域差についてデータ解析を行い、その上で現地調査を行う。現地調査は、海岸部の気候の地域差については観測または聞き取り調査を行うことを予定している。	水・4
高木正博	C	横手盆地の湧水と雄物川の水利用	秋田県横手盆地	6月下旬／7月上旬（3泊4日）	名水百選の湧水調査と雄物川支川玉川（酸性河川）の河水利用／これらの水が日常生活や農業用水等としてどのように利用されているのか、水質・水資源について詳細に調査する／点在する温泉の利用も視野に入れる	火・4
田中 靖	D	八重山諸島の人と自然	石垣島	10月初～中旬	八重山諸島の人と自然に関する調査を行う。調査は3泊4日の予定。全体巡検と班別自主調査実習の二部構成。主要テーマはサンゴ礁、景観、新空港の影響、土地利用、津波、離島の生活存立基盤、自然保護運動など。	水・3
平井幸弘	E	湖沼をめぐる環境問題とワイズユース	北海道オホーツク沿岸の網走湖、サロマ湖および周辺地域	夏季休暇初めor後期授業初めの3泊4日or4泊5日	北海道オホーツク海沿岸の網走湖、サロマ湖を中心に、湖およびその周辺地域において、湖をめぐる開発や環境問題、資源利用などに関して、地形調査、水文調査、植生調査、景観調査、また関係機関、団体、個人を対象に聞き取り調査や質問票調査を実施する。（キーワード：網走湖の塩水侵入、洪水対策、シジミ漁、サロマ湖の水質汚染、ホタテ養殖、砂浜海岸の侵食問題など）	水・4

*演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。希望人数によっては調整することもあります。